

# 先進地視察研修を終えて 地域医療にどう取り組む

## 豊間根 信 議員

全国的医師不足の中、町においても県立病院の内科医常駐不在という状態が続き、新型インフルエンザへの脅威が現実となり、さらに不安は増すばかりである。議会においてもあらゆる手段をもって対策を講じなければと訴えてきた。町執行部も医療局・医大などに陳情してきましたが、非常に厳しい状況であります。

遠野市は、斬新な施策と行動力を持って医師対策先進地として素晴らしい実績があり、常識だと思っていた今までの陳情などの手段では解決は難しいというこ

とを痛感させられた。

これからの地域医療は病院と行政、住民がそれぞれの立場から地域医療を守っていく決意を、そして首長の強い決断が求められる。今、出来ることを一歩一歩解決し、一日でも早く安心できる体制づくりに取り組んでいかなければならぬと思います新たに視察研修であった。

## 稲川 勝憲 議員

遠野市では、平成19年1月10日「市民医療整備室」を設置し、19年4月1日から医師確保対策と医療環境整備に着手し、これまで5人の医師を招へいた。

医師の確保は、大学の医局に頼らない種々なところの出身の医師が遠野市に長く住んでもらうための手立てを察知して対応してきた。

県立病院であっても市民が利用する病院であるという考えに立って医師と市民の関係も良くなっている。地域医療は、病院と行政、市民が地域医療を守る姿勢である。

「医師確保は、首長の判断と本気度につきる」との菊池室長の講話が短時間であったが大変心を打つ研修であった。

本町でも遠野市に学び医師が山田町に一日も早く着任するような「環境づくり」

の対策を講じなければ医師の確保は難しいと感じたところである。

## 黒沢 一成 議員

医師確保の先進地である遠野市を視察し以下二点を強く感じた。

第一に首長が本気になつて予算も付けなければダメということ。遠野市は年間予算3500万円ほど用意して実質1000万円強使っているとのこと。

病院の規模・役割の違いはあるが、現在勤めている医師の希望なども聞いて、山田町の県立病院に勤めることの良さをアピールできるオプシオンを具体的な形

で用意し、ホームページなども利用し表面に出すことが必要。

第二に、少ない医師の負担を軽減するため町民が協力することが大切であり、町民にそのことを周知する必要があること。

遠野市が市民に配布したパンフレットは苦情がでるのではと思うぐらい厳しいことが書いてあったが、それぐらいのことが必要な状況であることを町民に理解してもらうことが医師確保の前提となる。

## 山崎 泰昌 議員

非常にカルチャーショックを受けた研修であった。